

はからず涙を流す。あんなに負けず嫌いな選手は今まで見たことがない」。高校時代に指導した帯広南商業高校スケート部監督の東出俊一教諭は舌を巻く。「絶対に勝ちたい」。時に、気持ちが強まるあまりの言動や態度に驚かされた経験も振り返り、「菜那に出会えたのは教える側としての“だいご味”」。指導歴30年余りの指導者に、そう言わしめる存在だ。

4年前のバンクーバー五輪では、当の中学生の妹の美帆さん（日体大）が代表入りし一躍シンデレラガールに。自身は観覧席で家族とともに声援を送った。「普段は仲が良い姉妹だが、競技者としてはライバル。口には

人目ばばからず涙  
「レースに負けたら人目をば  
らす」と思ふ。うつむき

持ち前の「負けん気」で成長

## 高木菜那選手(21)



幕別町出身。日本電産サンキヨー、  
帯広南商高卒。1500ドル、団体  
追い抜きに出場

中学時代から同じチームで、  
堺広南商高でも一緒にスケート  
に打ち込んだ関口莉菜さん(21)  
＝高崎健康福祉大3年＝も、負  
けず嫌いの一面を近くで見てき

かり積み重ねて いるのは 体つき  
や 露西 気で 分かつた。 持ち前の  
『負けん気』に 意識、 実力が 伴  
つて きた」と 期待する。

菜那さんが小学6年生のときのスケート大会後の集合写真。後列右から2人目が菜那さん、同左端が五輪代表の押切美沙紀さん、前列中央が妹美帆さん(2004年)

出さなかつたが、当然悔しさはある。あつたと思う。帯広南商高時代の競技仲間たちは思いはかる。秋山佳菜さん（21）＝日体大3年＝は札内中、帯南商高の同級生で、一緒に練習に汗を流した。「競技を離れるとよくしゃべり、居眠りをしていた」と笑う。だが、人なつこい友人が一人で自主練習に励み、手を抜かない姿を見てきた。「苦しい時期もあったと思う。自分をしつ

かり持っている菜那だからこそ、厳しい実業団チームで実力を發揮していると思う」

「大きな滑り」磨く  
「なんで勝てないんですか?」「まだ自分に力がないからだ」。涙を流す菜那さんに語り掛かり持っている菜那だからこそ、厳しい実業団チームで実力を發揮していると思う」

た一人だ。代表入りを決めた後、メールで「おめでとう」と連絡を受けた。「五輪では楽しんで莘那らしい滑りを見せてほしい」と願う。

一 菜 と 直  
の舞台に立つ教え子、先輩に声援を送る予定だ。東出教諭は「気持ちや根性を引き出しにできるのはあの子の良さ。その姿がみんなに勇気を与えてくれるはず」。持ち前の気持ちを前面に押し出した快走に期待している。  
(原山知寿子、おわり)